



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(27) コツブクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(27) コツブクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-07-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180160>

RIGHT:

© 紀伊民報社

コツブクラゲ



△
本当に小さなコツ
ブクラゲ

久保田 信

27



コツブクラゲは、まさに名
前通りの小粒なクラゲだ。写
真の個体は傘径0・56ミしか
ない。大きくなってもせいぜ
い1ミ程度までにしかならな
い。

コツブクラゲの特徴は、未

成熟時期に口柄にクラゲ芽
(クローン)を一度にいくつ
も出芽して増殖することだ。
写真では、1個の大きくなっ
たクラゲ芽と、でき始めたば
かりのものの2個が確認でき
る。数日もしないうちに、大
きい方のクラゲ芽は、若い小
さな娘クラゲとして母体を離
れるはずだ。そしてその娘ク
ラゲもすぐにまたその娘クラ
ゲをつくって、次々と増えて
いく。このため個体数が急速
に増えるので、採取される確
率は上がる。

日本各地の沿岸に普通に見
られ、田辺湾では11〜12月を
除いて、年中
採集できる。
この個体は今
年7月16日、
田辺湾でのネ

ットびきで採取した。未成熟
な個体は頻繁に見つかるが、
不思議なことに成熟したクラ
ゲが発見されていない。花ク
ラゲ類なので生殖巣は、口柄
上部を取り囲んで発達するは
ずである。

口柄の上にゼラチン質の口
柄支持柄があるが、口柄支持
柄は短いので、口柄が傘口か
らは突出することはない。口
唇の4隅が伸びて口触手のよ
うになり、獲物を確実に射止
める働きをする。

放射管は4本あり、口柄根
元の胃腔(いこう)で消化し
た餌を体中に送る役割を果た
す。傘の縁には4本の触手が
すらりと伸びている。その根
元にある膨らみは触手瘤(り
ゆう)で眼点はない。

ポリプが不明なままである
が、近縁種が巻き貝などを宿
主とする群性性のポリプなの
で、このような共生種かもし
れない。海外でもクラゲ世代
が知られており、外国では中
国、イギリス、地中海、ブラ
ジルに分布する。

(京都大学准教授)